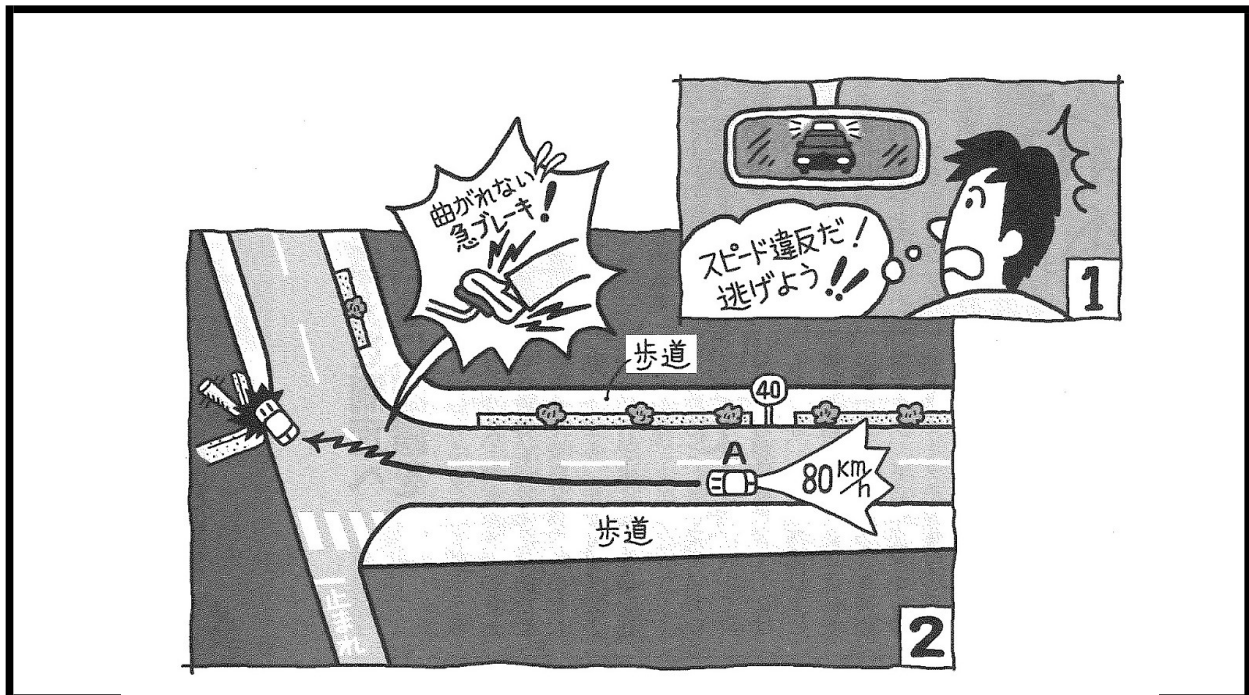


■ 事故の概況



事故類型：車両単独

発生日時：夜

当事者 A：普通乗用車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは郊外のレストランで友人と食事をした後、友人を送りながら帰宅する途中でした。交差点の停止線先頭で停止したAはとっさに近道をしようと赤信号を無視してUターン。同時にアクセルペダルを踏み込み、速度を上げて家路を急ぎました。ふと、ルームミラーを見ると後方に赤色灯を回転させながら追いつてくるパトカーが見えました。Aは「まずい、スピード違反だ」と思い、「脇道に入れば捕まえないだろう」と急に左へハンドルを切り脇道に入り、最高速度が時速40kmと指定されている道路を時速約80kmで逃走しました。前方に一見丁字路となっている、やや下り坂の右カーブに差しかかりました。パトカーの追跡を振り切ろうとしていたこともあり、そのままのスピードで強引に右カーブを曲がろうとしましたが思った以上の急カーブだったため曲がりきれないと判断、急ブレーキを掛けながらハンドルを右に切りましたがバランスを失い、道路左側のブロック塀と電柱に衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

この事例はパトカーの追跡を逃れようと制限速度の倍の速度で走行したことと、夜間で、しかも逃走しようとする違反者心理が的確な道路環境の判断を誤らせた大きな要因といえます。

逃走するための速度超過は論外ですが、どのような場合でも道路環境に見合った速度で走行し、起こりうる危険を予測しながら慎重に運転することが大切です。特に夜間は交通量が少ないため、ドライバーはスピードを出す傾向にありますが、車のヘッドライトの照射範囲内で停止できる速度で走行することが事故防止上極めて重要です。